

道具としてのファイナンス 問題編 - 株式

【問題 67】

純粋持株会社である XYZ 社は、上場会社 A 社、B 社の株式を保有しています。XYZ 社の保有株式数を 50,000 株とすると以下のような前提条件の場合の XYZ 社の株価を計算しなさい。ただし、市場は効率的であると仮定する

【A 社関連データ】

株価：450 円

発行済株式数：100,000 株

XYZ 社株式保有比率：30%

【B 社関連データ】

株価：1,200 円

発行済株式数：60,000 株

XYZ 社株式保有比率：60%

【解説】

この問題を解く前に道具 109 ページの効率的市場仮説をお読みください。効率的市場仮説が言っていることは、そんなに難しいことではありません。単に市場における競争は極めて厳しく、したがって、簡単にリスクをとらずに稼ぐことはできないこと、証券の価格はその資産に内在する価値を反映するというを言っているにすぎません。

この問題では特に、市場のつけた価格こそが価値であるという点に着目します。次に大切なことは、価値の加法性の原理です。これは、全体の価値は各部分の価値の合計に等しいという考え方です。しばしば、価値保存の法則と呼ばれることもあります。

問題にある XYZ 社は事業を行わない純粋持株会社です。XYZ 社の価値（＝時価総額）は、保有している A 社と B 社の価値（＝時価総額）のうち、XYZ 社の持分の合計であるということです。

価値の加法性の考え方は、全体のキャッシュフローが増加しない限り、二つの企業を一緒にしたところで、その価値を増すことができないことも意味しています。いいかえれば、二つの会社を合併させたところで、合併によってキャッシュフローが増加しなければ、企業価値は増加しないということです。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		XYZ社の保有株式数	50,000	株			
3							
4		【A社関連データ】					
5		株価	450	円			
6		発行済株式数	100,000	株			
7		XYZ社株式保有比率	30%				
8							
9		【B社関連データ】					
10		株価	1,200	円			
11		発行済株式数	60,000	株			
12		XYZ社株式保有比率	60%				
13							
14			時価総額	株式保有 比率	XYZ社の 時価総額		
15	A社		45,000,000	30%	13,500,000	<- =C15*D15	
16	B社		72,000,000	60%	43,200,000	<- =C16*D16	
17	XYZ社の時価総額合計				56,700,000	<- =SUM(E15:E16)	
18							
19	XYZ社の株価				1,134	<- =E17/C2	
20							